

～海を越えたハルモニたち～

アリラン 아리랑 랩소디 ラプソディ

「もう死ぬのは怖くない」
パワフルに生きた
ハルモニたちの日々が
今、ささやかに弾ける！

金 聖雄監督作品

2023年 125分

出演 川崎のハルモニたち

撮影：池田俊巳 録音：吉田茂一 音楽：横内丙午

製作・配給 Kimoon Film



在日コリアンのおばあさんたちは 今どうして、ここにいるのだろうか



映画の主人公は川崎に生きるハルモニたち（ハルモニとは、韓国語でおばあさんの意）。戦争に翻弄され、生きる場を求めて幾度も海を往來し、たどり着いた川崎でささやかにたくましく生きてきた在日一世たち。波乱万丈の人生を歩み、故郷・朝鮮半島への思いも貧困と差別の記憶もかたくなに封印してきたが、老いてようやく文字を学び、歴史を知り、静かに力強く生きている。ハルモニたちは、戦争を語る最後の世代。今、語っておきたいことは？

ようやく得た
自分の時間
地域の人々と共に
老いを豊かに生きる

小さなデモ
戦争と差別を体験したからこそ、
戦争も差別もない世界を願う

史上最強の チャーミングな シワを観よう！

デビュー作品『花はんめ』（2004公開年、キネマ旬報文化映画 9位）の撮影で川崎に通い始めてから四半世紀。「ハルモニたちの過去と今をきちんと記録しておかなければ」と、在日二世の監督・金聖雄が小さな使命を背負って完成させた。『花はんめ』の未公開シーン、戦後在日 50 年史『在日』（1998年公開）や戦中戦後の資料映像を盛り込みながら、ハルモニたちの人生に寄り添い、描いた。想像を絶する苦勞を、シワいっぱいの笑顔で語るチャーミングなハルモニたちに、映画でぜひ出会ってください。

泣いて笑って
とてつもなくチャーミングな
シワに見惚れる



沖縄へ
同じように戦争を体験した
おばあさんとハルモニたちとの交流



「日本に暮らす私たちは、映画やドラマ、音楽や食など韓国文化に魅了され続けています。でも、在日朝鮮人の存在、歴史がすっぱり抜け落ちているような気がするんです」(監督: 金聖雄)

監督：金聖雄
プロフィール

1963年大阪・鶴橋生まれ。『花はんめ』以降の作品は、『空想劇場』（2012年）に続き、冤罪をテーマにした4作品。『SAYAMA みえない手錠をはずすまで』（2013年）では毎日映画下キュメンタリー映画賞受賞。『オレの記念日』（2022年）は、全州国際映画祭、フランクフルト ニッポン・コネクションにも参加。時間をかけた取材、被写体に寄り添うあたたかな眼差しが国内外で評価されている。

応援団のみなさん

ayako_Halo アン・サリー 安海龍 石川一雄 石川早智子 石原燃 石橋学 李政美 磯部涼 大熊ワタル 太田昌国 呉光現 金子あい 鎌田慧 香山リカ 神田香織 きむきん こぐれみわぞう 小室等 こむろゆい 河野“茜ちゃん”俊二 坂田明 桜井昌司 沢知恵 白崎映美 辛淑玉 菅家利和 関田寛雄 田中宏 谷川賢作 ダースレーダー 崔江以子 鄭甲寿 趙博 中川五郎 中村一成 中山千夏 裨田ひで子 ばくきよみ PAK POE *はななおと* 深沢潮 藤重度 松元ヒロ 南控 宮子あずさ 森達也 師岡康子 安田浩一 山田せつ子 吉村喜彦 良元優作 朴慶南 金井真紀

スタッフ

撮影：池田俊巳 渡辺勝重 菊池純一 世良隆浩 飯塚聡 康宇政 金聖雄 録音：吉田茂一 現場録音：池田泰明 編集：金聖雄 康宇政
制作：庄野嘉純 スチール：村田次郎 大八木宏武 ドローン：橋本吉剛 製作デスク：若宮まさこ 音楽：横内丙午
ポスター撮影：逢川清 print media デザイン：加藤さよ子 print media：松井一恵 語り：金聖雄 プロデューサー：陣内直行

製作・配給：キムーンフィルム 2023年 ドキュメンタリー映画 125分

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業） | 独立行政法人 日本芸術文化振興会



川崎市国際交流センター グローバルセミナー 映画上映会

日時：2025年1月11日(土)13:00～（開場12:30）

場所：川崎市国際交流センター ホール(自由席)（東急東横線/目黒線「元住吉」駅から徒歩10分）

入場料：660円(事前振込) 定員：200名(先着順) ※11月15日(金)から申込受付開始

申込み：申込フォーム<<https://www.kian.or.jp/kic/frm-global-seminar24.shtml>>からお申込みください。

入場料をお振込みいただいた方にチケットをお送りいたします。

申込みはこちらから

後援：神奈川県、川崎市教育委員会

